

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校

- 1 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
- 2 確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
- 3 先進的・先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

## 2 中期的目標

## 1 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 多様性を認める人間関係をはぐくむ活動の充実を図る。

- ア 誰もが個性や趣向を肯定され、安心して学校生活が送れる居場所としての集団づくりを進める。
- イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
- ウ 情報リテラシーの育成を図る。

※探究ナビや人権HRのさらなる充実を図ることで、学校教育自己診断（生徒7）で「学校には自分の居場所がある」の肯定的回答率（R5：85.8%、R6：85.3%、R7：86.2%）を令和8年度まで80%以上を維持する。

(2) 安全で安心な学びの場とするための環境整備を行う。

- ア すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
- イ 生徒が気軽に相談できる環境を整備する。
- ウ いじめを見逃さない教職員集団を作る。
- エ 中学校等との連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。

※情報共有を密にするなど、きめ細かな相談支援体制をさらに充実させることで、学校教育自己診断（生徒16）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答を（R5：80.4%、R6：78.5%、R7：82.2%）を令和8年度まで80%以上を維持する。

※保護者のニーズを踏まえた情報発信を行い、学校教育自己診断（保護者9）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答を（R5：78.4%、R6：74.3%、R7：78.8%）を前年度比で増加させ、令和8年度には80%以上とする。

## 2 確かな学力の育成と授業改善（教育力向上と進路実現）

(1) 教育センターと一体となった教育実践の研究

- ア 電子黒板と1人1台端末を活用した授業についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
- イ 観点別学習状況評価についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
- ウ 授業研究やカリキュラムマネジメントにおけるアドバイザーとして教育センターのリソースを活用する。

※上記アイウに関する校内研修において、教育センターの指導主事から指導助言を得るなど協働で取り組み、研究を重ねる。

※授業公開週間をさらに充実させ、公開研究授業及び研究討議を複数回実施し、その成果を発信する。

(2) 基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組みとその成果の発信

- ア 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。
- イ 学びを活かそうとする意欲の向上を図る。
- ウ 読解力の育成・充実を図る。

※学校教育自己診断（生徒11）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫してくれる先生が多い」（R5：78.7%、R6：74.5%、R7：82.7%）を前年度比で増加させ、令和8年度まで80%以上をめざす。

(3) あくなき探究心の育成

- ア 教科横断型である探究ナビを本校教育活動の軸と位置付け、活用型の授業に取り組む。そして、探究ナビ発表大会を実施し、探究活動の充実とその成果を発信する。
- イ 全教科において、「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。

※学校教育自己診断（生徒13）で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会を設けるなど、学習形態に工夫がされている」（R5：84.6%、R6：86.4%、R7：87.6%）を令和8年まで80%以上を維持する。

- ウ 進路指導を充実させる中で、自ら学ぶ生徒を育成する。

※学校教育自己診断（生徒15）で「学校の教育活動の中で、将来の進路や生き方について考える様々な機会がある」（R5：87.6%、R6：83.6%、R7：87.8%）を、令和8年度以降も80%以上を維持する。

※3年間を見通した進路指導を着実に実行することにより、年度末時点での進路決定率90%以上を維持する。（R6：90.2%、R7：97.0%）

※令和4年度、「探究図書館を創ろう」が学校経営推進費支援校に決定。評価指標として、図書館の来館者数を1000名以上（R5：1079、R6：3151、R7：4015）とし、利用書籍の統計変化を探るとともに、学校教育自己診断（生徒12）で、「講義室、実習教室、探究図書館等、HR教室以外で探究的な教育活動が行われている」の肯定回答率（R5：80.2%、R6：80.9%、R7：82.9%）を令和8年度まで80%以上を維持する。また、大阪府教育センターフォーラム等での成果発表を行う。

## 3 「チーム教セン」による新しい課題への挑戦（支え合い高め合う組織の実現）

(1) 広報活動の充実と地域に開かれた学校をめざす。

- ア 近隣の中学校約50校を訪問するとともに、ホームページ等を活用した広報活動を充実させる。（R5：50校、R6：55校、R7：55校）
- イ 近隣中学校との交流を推進し、中高教員相互の授業力の向上に繋げる。

(2) 生徒の自主的な活動を充実させる

- ア 生徒会を中心に、生徒が主体的に行う体育大会、文化祭等の行事を充実させる。
- (3) 校務の効率化と働き方改革の推進
- ア 全校一斉定時退庁日及びノークラブデーの活用をさらに促進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。
- イ 超過勤務時間が月80時間を超える教職員を年間で、10名以下をめざす。(R5:11名、R6:12名、R7:19名)
- ウ タブレットの活用によりペーパーレス化を推進することで職員会議等の時間短縮を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <p>24項目のうち23項目について肯定的回答が増加した。特に、「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い。(＋8.2%)」、「校外学習、体育大会、文化祭等の学校行事は充実していて楽しい。(＋6.8%)」「この学校には、魅力のある部活動があり、活動が盛んである。(＋7.5%)」は大幅に伸び、本校の組織的な授業研究に関する取組み、総務企画部を中心とした特別活動に関する取組みの成果が生徒たちにも実感として受け止められていると考えられる。</p> <p>「チームの中で必要とされている役割を積極的に引き受けることがある。(－2.5%)」については、引き続き、一人ひとりの生徒に、クラスやチームの中で自分の強みを生かした役割があることを伝える教育活動を行っていく。</p> <p>自由記述では①生活指導方針、②施設・設備の改善、③行事に関する記述が多かった。</p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い。(74.5%→82.7%)＋8.2%</li> <li>・この学校には、魅力のある部活動があり、活動が盛んである。(75.9%→83.4%)＋7.5%</li> <li>・校外学習、体育大会、文化祭等の学校行事は充実していて楽しい。(75.6%→82.4%)＋6.8%</li> <li>・学習環境面において、学校の施設・設備に満足している。(66.7%→72.7%)＋6.0%</li> </ul> <p>【保護者】</p> <p>「学校の部活動は、活発に行われている。(＋8.4%)」において、肯定的回答が増加しており、保護者の希望に沿った部活動が展開されていることがわかる。</p> <p>「子どもは、授業がわかりやすいと感じているようだ。(66.5%)」については、生徒の類似の項目「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い。(82.7%)」と大幅な乖離があり、本校の組織的な授業研究の取組みについて保護者にも伝わるよう周知方法を検討する。</p> <p>自由記述では、情報共有の在り方について述べられたものが複数あり、次年度から活用予定である「連絡ツール」を通じて改善を図っていく。</p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の部活動は、活発に行われている。(73.7%→82.1%)＋8.4%</li> <li>・この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。(70.8%→75.4%)＋4.6%</li> </ul> <p>○肯定的評価が低下した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは、授業がわかりやすいと感じているようだ。(71.8%→66.5%)－5.3%</li> </ul> <p>【教職員】</p> <p>20項目のうち1項目について肯定的回答が増加した。「近隣の学校との交流の機会を設ける等、地域とのつながりを大切にしたい取り組みを進めている。(＋11.5%)」について、今年度の新たな地域連携の取組みが評価された。</p> <p>一方で20項目のうち、19項目において否定的回答が増加した。特に、「校務効率化(部活動を含む)に向けて学校全体で取り組んでいる(－36.3%)」について、例年にはない事象に対し、教職員が対応したことが影響したものとと思われる。全般的には、来年度以降の学校再編に向けて、校内でさまざまな議論がされているなか、教職員の不安感、負担感などのマイナス要素が重なったことなどが考えられる。</p> <p>自由記述では、①業務の集中(割り振り)、②分掌改革に関する意見があり、①担任・副担任の業務の見直し等、②情報部の新設等、を早急に検討する。</p> <p>○肯定的評価が増加した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の学校との交流の機会を設ける等、地域とのつながりを大切にしたい取り組みを進めている。(65.0%→76.5%)＋11.5%</li> </ul> <p>○肯定的評価が低下した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務効率化(部活動を含む)に向けて学校全体で取り組んでいる。(79.2%→49.2%)－36.3%</li> <li>・校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている。(87.5%→58.8%)－28.7%</li> <li>・生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。(100.0%→79.4%)－20.6%</li> <li>・この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。(92.5%→73.5%)－19.0%</li> </ul>	<p>第1回(6/16)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革を進めていく中で、「働く意欲の保証」「地域等とのつながり」が軽視されてしまうのではないかと。</li> <li>(学校より)生徒たちのために邁進したい教員の思いも大切にしていけることが充実した教育につながるため、校務のICT化を活用するなど、効率化を図ることで時間外労働時間の削減を進めたい。また地域とのつながりについても、地域および学校(教員・生徒)の双方にとってより良い形を創っていききたい。</li> <li>・多様性を認めるために、具体的にどのような取組みを行うか。</li> <li>(学校より)今年度は「ポジティブ行動支援」についての教員研修を行い、まずは教員間で相互の良さを認めていくことが教員の心理的安全性につながると考えている。</li> <li>・探究ナビを通して身につけさせたい力を全教科で育むことをめざすことで、学校として新たなフェーズに入ることができる。</li> <li>・生徒自身も探究ナビと各教科でめざす先が同じであることを認識することができれば、自然と学習に向かう姿勢に繋がるのではないかと。</li> <li>・成績上位者への手立て(集会・講習)について賛成である。一方で上位層以外の生徒に対する手立てをどのように考えているか。教員からの声掛けがとても大切であると思う。</li> <li>(学校より)分からない部分を気軽に聞くことができたり、周囲の友達と和やかに勉強をするような機会を設定するなど、学びの集団を作ることで様々な学習到達度の生徒に対して支援していきたい。</li> </ul> <p>第2回(11/10)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究ナビにはやはり様々な中学生の保護者から興味を持ってもらいたい。伝わるようにしてほしい。</li> <li>・「個別最適な学び」と聞くと、「通級指導」のような観点も重要になってくる。「個別最適な学び」の実現には「探究」としての取組みの充実と「人材の確保」がとても大切になってくるだろう。</li> <li>・地域をもっと巻き込んでみてはいかがだろうか。</li> <li>・教員ももっと探究してみたいか。</li> <li>(学校より)今年度は3年生の担任も、探究活動に取り組んでいる。</li> </ul> <p>第3回(2/19)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化に対する不安も大きいものと思われるため、透明化に努めてほしい。</li> <li>・地域連携は今後も推進してほしい。</li> <li>・「個別最適な学び」や「協働的な学び」という言葉をパンフレットで全面的に押し出しても中学生に伝わらないかもしれない。伝わりやすい言葉で、なおかつ本校での生活が楽しいものであると想像できるようなパンフレットを作成してみたいか。</li> <li>・学校文化が学校の特色になる。学校文化を大切にされたい。</li> <li>・私学を希望する中学生が増える中、中高連携のあり方を見直していかなければならない。</li> <li>・探究ナビを通して考える力をこれからも育ててほしい。</li> <li>・探究ナビ2.0を今後とも継続することを希望する。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 豊かであ たたくま しい人間 性のはぐ くみ	(1)多様性を認める人間関係のはぐくみ ア)居場所としての集団づくり	(1)多様性を認める人間関係のはぐくみ ア) より良い人間関係の構築をめざし、クラスづくりの導入となる活動を全教員が指導できるようにするための「クラス開き研修」を全教員参加で年度当初に実施する。また、授業研究委員会を中心に授業改善を行い、授業等において、積極的に発表したり、意見が言いやすい雰囲気づくりをめざす。	(1) ア) ①学校教育自己診断(生徒7)で「学校には自分の居場所がある」の肯定率80%以上を維持する。[85.3%] ②学校教育自己診断(生徒13)で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会を設けるなど、学習形態に工夫がされている」の肯定率80%以上を維持する。[86.4%] ③互いを認めるため、人権尊重の精神を養うことを目標に、生徒対象の人権研修を各学年1回実施。[各1回]また、教員対象の人権研修及び校長による研修実施。[1回、毎職員会議時]	ア) ①クラス開きの校内研修実施(4/4)「クラスには自分の居場所がある」の肯定率86.2%(◎) ②「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率87.6%(◎) 授業研究委員会が、授業に探究的な手法をいかに導入するかをテーマに研修を実施。各教員が自分の授業に落とし込んだ結果が表れている。 ③1年生:LGBT 2年生:在日外国人 3年生:労働問題についての人権研修を実施。教職員には校長による研修21回実施。(◎)
	イ) 課題の早期発見 ウ) 情報リテラシーの育成	イ) 支援の必要な生徒の情報を、担任会、教育相談委員会、教育支援委員会を週1回開催し、情報を密に共有し、課題が深刻化しないように努める。 ウ) あらゆる教育活動を通して、適切な情報の収集、発信、活用について啓発を行い、情報リテラシーを高める。	イ) 学校教育自己診断(生徒16)で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率80%以上を維持する。[78.5%] ウ) 人権教育委員会から SNS 関連に係る注意喚起等の啓発活動を定期的に行うことで、SNS 等、ネット上での課題事象の減少に努める。併せて、課題事象発生時の適切な対応についての校内研修を複数回行う。[1回]	イ) 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率82.2%(○) 教員間にカウンセリングマインド、傾聴の意識浸透。 ウ) ネット上での課題事象は昨年度より減少。情報の授業等を通して、生徒への指導継続。教員対象には、府立学校で生じた事案を元に、校内研修実施[1回]。(○)
	(2)安全で安心な学校生活のための環境整備 ア)危険予知及び緊急事態への対応能力の向上	(2)安全で安心な学校生活のための環境整備 ア) 現実的な災害を想定した訓練の実施や、感染症拡大による臨時休校等の緊急事態に備え、連絡及び教育的な支援体制(ICT の活用)を整える。	ア) 学校教育自己診断(生徒22)で「火災、地震、台風、大雨等の防災や防犯について緊急時の行動を知らされている」の肯定率80%以上を維持する。[83.7%]	ア) 「防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている」の肯定率85.4%(◎) 実際の災害を想定した避難訓練の実施することで、「自分ごと」と捉えさせる。
	イ) 相談できる環境の整備	イ) ゆるりすとルーム(何でも相談室)を毎日昼休みに開設と教科の準備室や職員室付近に机や椅子を設置し、気軽に質問や相談ができる場を拡充する。	イ) 学校教育自己診断(生徒5)で「学校で、自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率73%以上を維持する。[74.6%]	イ) 「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率77.9%(◎) 一つひとつの言葉を大切に、生徒の思いを受け止める教員集団の育成が身を結んでいる。
	ウ) いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための教職員集団	ウ) アンケート等を効果的に活用し、課題把握に努め、教育支援委員会等により教職員間で情報を共有し、深刻な問題に発展しないよう未然防止に努める。	ウ) 学校教育自己診断(教職員13)で「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定率90%以上を維持する。[100%]	ウ) 「いじめが起こった際の体制」の肯定率88.2%(○)引き続き、未然防止、早期発見、早期対応の重要性の共通認識を深める。
	エ)教育相談体制及びガイダンス機能の充実	エ) 相談しやすい体制づくりを進めるとともに、ゆるりすとルームの開設案内のプリントを月1回発行する。また、人権教育の校内研修の中で、相談体制を充実させるための内容を組み入れ、教員の指導力の向上を図る。	エ) ①学校教育自己診断(保護者9)で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定率80%以上をめざす。[74.3%] ②学校教育自己診断(生徒18)で「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率80%以上を維持する。[82.6%]	エ) ①「生徒をきめ細かく、多面的にサポート」肯定率78.8%(○) ②「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応」肯定率83.2%(◎)保護者との連携を含めた、チームとして生徒を見守る体制の構築が進んでいる。
	(1)教育センターと一体となった教育実践の研究 ア)電子黒板と1人1台端末を活用した授業についての研究・実践	(1)校内研修や教科会議に指導主事に参加してもらい、一体となった授業研究や授業実践を行う ア) 電子黒板と1人1台端末の環境の下での授業について、授業研究委員会を中心に実践研究を進め	(1) ア) 学校教育自己診断(生徒14)で「タブレットやプロジェクタなどの ICT 機器が教育活動全般で効果的に活用されて	ア) 「コンピュータやプロジェクタなどを使った授業がある」の肯定率89.3%(◎)教員間の授業見学

<p>2 確かな学力の育成と授業改善・教育力向上と進路実現</p>	<p>イ) 観点別学習状況評価についてのさらなる研究・実践</p> <p>ウ) 教育センターのリソースの活用</p> <p>(2) 基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取り組み ア) 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>イ) 学びを活かそうとする意欲の向上</p> <p>ウ) 読解力の育成・充実</p> <p>(3) あくなき探究心の育成 ア) 探究活動の充実と再構築</p> <p>イ) 「社会人基礎力」の育成</p> <p>ウ) 自ら学ぶ生徒の育成と希望進路の実現</p>	<p>る。</p> <p>イ) 観点別学習状況評価の本格実施にあたり、本校の状況に合わせた評価指針を充実させる。</p> <p>ウ) 教育センター大ホールを授業の成果発表の機会として活用したり、授業に関するアドバイザーとして指導主事を活用する。</p> <p>(2) 基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取り組み ア) 授業研究委員会、教科会議において、学力生活実態調査や実力テスト等の結果を分析し、学んだ知識・技能の活用を想定した授業づくりを進める。</p> <p>イ) 授業研究委員会（各教科から1名選出）を中心に、学校としてつきたい力、各教科でつきたい力、課題等を洗い出し、全教員で共有しながら学校全体としての授業力の改善と向上を図る。</p> <p>ウ) すべての教科で、読解力の育成をめざした取り組みを実施する。読書等、文章を読むことを啓発するとともに、新たに設立した探究図書館を、生徒自らが個別最適な学びや協働的な学びをデザインする学習活動を展開する場とする。</p> <p>(3) あくなき探究心の育成 ア) 本校教育活動の軸と位置付けている探究ナビをはじめとする探究活動を充実させ、その成果を発信するとともに、3年間を見通した指導計画をさらに充実させる。</p> <p>イ) 全教科で「社会人基礎力」（実社会で必要かつ役立つ力）の育成を意識した内容を授業に取り入れ、成果を検証する。</p> <p>ウ) 自ら学ぶ生徒を育成する。授業以外での学習習慣をつけさせるとともに、学ぶ意欲を喚起し、生徒の進路実現を図る。また、一人ひとりの希望進路を実現するため、将来を見据えた科目選択を含む教育課程を編成するとともに、系統的な進路講習等の個別の支援を充実させる。</p>	<p>いる。」の肯定率 85%以上を維持する。[87.4%]</p> <p>イ) 各教科における課題を洗い出し、情報共有を行い、課題解決に向けての校内研修を複数回実施する。</p> <p>ウ) 月1回教育センターと会議。合同での校内研修を3回実施し、指導主事からのアドバイスや情報提供を受ける。[3回]</p> <p>(2)</p> <p>ア) ①生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。の全平均が、前年比を維持する。[3.25]</p> <p>②授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を維持する。[3.29]</p> <p>イ) 学校教育自己診断（生徒 10・11）「興味・関心が高まる授業がある」の肯定率 73%以上[71.9%]「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定率 80%以上[74.5%]をめざす。</p> <p>ウ) 図書室の利用者数（授業での利用を除く）を前年度より増加させる。[2539]</p> <p>学校教育自己診断（生徒 12）で、「探究図書等で探究的な教育活動が行われている」肯定率 80%以上を維持する。[80.9%]</p> <p>(3)</p> <p>ア) 学校教育自己診断（保護者 11）で「将来の進路や職業などについて適切な情報提供や指導を行っている」の肯定率 80%以上を維持する[85.6%]</p> <p>イ) 学校教育自己診断（生徒 15）で「将来の進路や生き方について考える様々な機会がある」の肯定率 80%以上を維持する[83.6%]</p> <p>ウ) ①英語検定の受験者数が前年度を上回る。[英検 52 名、数研 8 名受験]②1年からの系統的な進路 HR を実施（年間 3 回以上）及び系統的な進学講習の開催（年間合計 10 回以上）することで、年度末時点での進路決定率 90%以上を維持する。</p>	<p>等を通して、ICT の使い方に広がりが見られる。</p> <p>イ) 授業研究委員会が校内研修を3回実施。(◎)</p> <p>ウ) 教育 C 幹部との定例の会議5回、指導主事との合同校内研修3回実施。今後も教育 C との連携を推進していく。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア) ①「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。」[3.32](◎)</p> <p>②「知識や技能が身に付いたと感じる」[3.36](◎) 引き続き、授業研究委員会からの情報発信、研修開催など、校内の機運を高める。</p> <p>イ) 「興味・関心が高まる授業がある」肯定率 77.5%(◎)、「教え方に工夫をしてくれる先生が多い」肯定率 82.7%(◎) 授業研究委員会を中心に生徒のニーズを分析し、授業の進め方について、さらに分析を進める。</p> <p>ウ) 図書室の利用者数[4015 人](◎)、「探究図書等で探究的な教育活動が行われている」肯定率 82.9%(○) 今後も昼休みの放送、図書館だよりの発行、図書館イベントなどの広報を充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア) 「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」83.2%(○)</p> <p>イ) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」87.8%(◎) 「行ける」ではなく「行きたい」進路へと導く進路指導を実現できている。</p> <p>ウ) ①英検、数検受験者数 [英検 15 名、数検 9 名受験] (△)</p> <p>②進路 HR 1 年 7 回、2 年 6 回、3 年 4 回 (◎) ・進学講習（年間を通じた実績） 1 年 12 回、2 年 48 回、3 年 110 回 (◎) ・科目選択説明会(1、2 年 2 回実施) ・進路別説明会(1、2 年 2 回 3 年 1 回実施) *3/31 延べ合格者数 ・4 年制大学合格者 220 名 ・短期大学合格者 21 名 ・専門学校合格者 58 名 ・公務員 1 名 ・就職内定者 12 名 年度末進路決定率 97.0%</p>
---------------------------------------	--	---	---	--

## 大阪府教育センター附属高等学校

3 チ ーム 教 セン による 新しい 課題 への 挑戦	<p>(1) 広報活動の充実 ア) 地域に開かれた学校</p> <p>イ) 近隣中学校との交流</p> <p>(2) 生徒の自主活動の充実 ア) 生徒会活動の活性化</p> <p>イ) 校内美化運動の充実</p> <p>(3) 校務の効率化と働き方改革の推進</p> <p>ア) 教職員の意識改革</p> <p>イ) 校務の効率化</p>	<p>1) 広報活動の充実 ア) 広報委員活動を活性化させ、学校説明会、体験入学会、ホームページ等を活用した広報活動のさらなる充実を図る。 イ) 近隣中学校を全教員で分担し訪問、広報するとともに、本校の授業公開週間の開催を近隣中学校へ広報することで交流を図る。</p> <p>(2) 生徒の自主活動の充実 ア) 生徒会を中心に、生徒が主体的に行う体育大会、文化祭等などの行事と部活動を充実させるために、生徒会活動や部活動の活動の様子や戦績の広報を充実させ、意欲の向上を図る。 イ) 保健委員を中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除等を徹底し美化運動を充実させる。</p> <p>(3) 「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。</p> <p>ア) 全校一斉定時退庁日及びノーワークデーの周知徹底を図るとともに、管理職による指導、助言を適宜行う。 イ) ・管理職から、学校部活動に関する方針（ガイドライン）を年度当初に配付・説明を丁寧に行うとともに、複数顧問等による役割分担制を明確にすることで、合理的かつ効率的な・効果的な活動を推進する。 ・終了時間を定めた会議の運営により、校務の効率化を図る。 ・職員会議等の会議時間を短縮するために、タブレットを使用することで、書類の電子化（ペーパーレス）をさらに推進する ・出欠連絡、アンケート等において、さらに ICT を活用し、業務の軽減を図る。</p>	<p>(1) ア) 近隣中学校 50 校を全教員で分担し訪問することで、学校説明会への参加人数を増やす。[第1回170名、第2回257名、第3回175名] イ) 学校教育自己診断（教職員 16）で「近隣の学校などとの交流の機会を設ける等、地域とのつながりを大切にした取り組みを進めている。」肯定率 68%以上をめざす。[65.0%]</p> <p>(2) ア) 学校教育自己診断（生徒 19）で「校外学習、体育大会、文化祭等の学校行事は充実して楽しい」の肯定率 77%以上 [75.6%]、（生徒 20）「この学校には、魅力ある部活動があり、活動が盛んである」肯定率 75%以上 [75.9%] をめざす。 イ) HR 教室等、学習環境を美しく保つことをめざし、定期的にチェックする体制を充実させる。毎週 1 回保健委員が各教室の清掃状態を点検し、評価指標に基づいて、点数化することで意識を高める。年度末には、学年別に優秀クラスを表彰。</p> <p>(3) ア) 超過勤務時間が月 80 時間を超える教職員を年間でのべ人数で 10 名以下とする。[12 人] イ) ・学校教育自己診断（教職員/R6 新設）「校務効率化（部活動を含む）に向けて学校全体で取り組んでいる」において、肯定率 80%以上。[79.2%] ・学校教育自己診断（教職員 18）で「校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている」の肯定率 80%以上を維持する。[87.5%] ・ストレスチェックにおける健康指数を前年度より下回る。[87]</p>	<p>(1) ア) 近隣中学校 55 校訪問 (◎) 学校説明会への参加人数 (◎) [第1回187、第2回280、第3回176] 計 643 名 イ) 学校教育自己診断で「近隣の学校などとの交流の機会を設ける等、地元とのつながりを大切にした取り組みを進めている」の肯定率 76.5% (◎)</p> <p>(2) ア) 学校教育自己診断で「学校行事は充実して楽しい」の肯定率 82.4%(◎) 「この学校には、魅力ある部活動がある」の肯定率 83.4% (◎) イ) 美化運動を定期的実施できたことで、学習環境が整備された。(○)</p> <p>(3) ア) 超過勤務時間が月 80 時間を超える教職員 19 名。(実数 11 名) (△) イ) ① 学校教育自己診断で、「校務効率化に向けて学校全体で取り組んでいる」に肯定率 42.9%(△) ② 「校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている」の肯定率 58.8% (△) ③ ストレスチェックにおける健康指数 [91] (△) ・全校一斉定時退庁日を原則、毎週水曜に設定。 ・欠席、遅刻連絡を ICT で実施。 ・時間外の外線電話受付中止。 ・会議資料のペーパーレス化で、平均して職員会議時間が平均 30 分短縮実現 ・伝達事項のオンライン共有（学習支援クラウドサービス、ライデンメール） ・ICT 環境の整備（首席管理） ・アンケートの電子化及び保護者へ文書配布のデジタル化（学習支援クラウドサービス 生徒、保護者） ・会議場所の予約システムの電子化</p>
---	---	--	--	--